

【本日参加者】 12名

・学校運営協議会委員

大塩 宗里	青柳 庄一	齊藤 司朗	竹内 美千子
野口 文夫	寺内 利之	齋藤 幸紀	橋本 織
齋藤 佳代子	校長		

・地域学校協働活動推進教員

橋本 俊明

・事務局 金久保 貴子教頭

増淵 敦子教務主任

1 日程確認

2 協議 10:00~12:00

- 1 会長あいさつ
- 2 校長あいさつ
- 3 協議内容等(進行・・・会長)
 - (1) ボランティア活動報告会について
 - (2) 学校評価について(これまでの取組、学校運営上の課題について)
 - (3) 令和5年度の学校行事について
- 4 質疑

会長

1 会長あいさつ

・本日、最終の学校運営協議会となります。宜しく願いいたします。年明け、大きな災害があり、自然界の脅威を感じるところであります。本日は、私たちの任務をしっかり全うして、協議会を進めていきたいと思っております。

校長

2 校長あいさつ

・今年度最後の協議会という言葉が、会長から言われましたように、学校の方も、6年生にとっては、最後のクラブ活動、最後の委員会活動という言葉が耳に届いてくる時期になりました。今日は、一年間の学校課題のふり返り、そして、次年度に向けてということで、委員の皆様からたくさんご意見をいただきたいと思っております。

・今週は、授業参観がありました。子どもたちの一年間の成長を保護者の方々に観ていただきました。保護者のアンケートに目を通したところ、「一年間の成長を感じました。」や「先生方のお力、ありがとうございました。」など、有り難い言葉を頂けて、職員共々気持ちが前向きになり、また、頑張りたいなという思いをいたしました。

・今日も、地域の方が木の剪定で力を貸してくださったり、様々な場面で、学校、そして、子どもたちのために何ができるかなということで、お力を貸してくださったりしております。今朝は、読み聞かせ活動ということで、読み聞かせボランティア(本委員の中にもいらっしゃいます。)の方々に、朝から来て子どもたちに読み聞かせを行ってくださいました。本当に、たくさんの方々のお力をいただきながら、一年間を過ごしてきたなど実感しております。

・残り2ヶ月弱ありますが、引き続き宜しく願いいたします。また、本会が、皆様にとっても良い会になりますようご協力お願いいたします。

3協議

(1) ボランティア活動報告会について

・1月29日(月)に、ボランティア活動報告会を実施いたしました。20名位の方が参加してくださいました。学校運営協議会の委員の方でボランティアをされている方々や、読み聞かせボランティアの方、植木関係の方、スクールガードボランティアの方など幅広く本校のために活動されている方に参加していただきましたので、その時の様子をご報告いたします。

・まず、学校長から、本年度のボランティアさんの取組の様子の説明とお礼を述べました。

・また、地域連携教員からは、本年度のボランティア活動報告ということで、写真を使いながら一年間の様子を説明させていただきました。児童は、何らかの形でボランティアの方々に支えられております。

・3つのテーブルに分かれる際、くじ引きをして、いろいろなボランティアの方が同席できるようにしました。また、意見交換される皆さんの気持ちを和らげるために、じゃんけんゲームを行い、和やかな雰囲気の中で、各テーブル毎に話し合いを行いました。ご自分のボランティアについて話されたり、質問したり、また、今後の工夫点や改善点など活発な意見がでました。

・写真の説明(本会長が取り組んでおります合唱部の様子、また、スクールガードボランティアの様子、一昨日行われた手品・ゲームクラブボランティアによる家庭教育学級「親子で楽しむマジックショー」の様子、植木剪定ボランティアの様子等)

・各テーブル、いろいろなボランティアの方が集まり、ボランティアの垣根を越えた活発な意見交換をされていました。

・1年生の保護者の方が、図書ボランティアとして活動していただきました。報告会にも参加くださり、ベテランの方々と一緒に話し合い、学校に目を向けていただけて大変心強い限りです。

・皆さんの意見として、話題に上がったことをまとめたものを紹介いたします。

① ボランティアさんの後継者の育成

樹木の剪定やスクールガードボランティア、読み聞かせの方々などは、高齢の方が多いため、今後人数が増えて充実した活動ができればという意見が出ました。

② 通学路の整備

今年度、上原地区の通学路が少し変わりました。育成会の方や、支部長さんのお骨折りで意見をまとめてくださり、地域の方と相談されたと言う経緯があります。

通学路整備だけでなく、学校との調整など今後どう取り組んでいくべきか等の意見が出ました。

③ ボランティア募集について

ボランティアの周知の方法として、保護者や地域の方々に広く情報提供できるように、一斉メール・地域への発信・本協議会の委員さんの活用・PTA役員・自治会等など今後、工夫していけそうなことなど、皆さんから、たくさん意見が出ました。

例えば、樹木の剪定で、ボランティアが足りない場合は、シルバー人材の活用を考えてみる。また、通学路整備については、自治会に相談してみる等の具体的な意見が出ました。

④ その他

パトロールベストの活用として、たくさんの方に着用していただけるよう取り組んでいきたいと思っております。また、「子どもを守る家」の依頼について、継続・新規の依頼等をお願いしていかなければならない等の意見が出ました。

(3) 学校評価について

・今年度より石橋中学校区で統一した質問で学校評価を行いました。方法としては、児童に貸与しているタブレットで、児童も保護者も回答していただきました。保護者の回答率は90.3%でした。回答率の心配がありましたが、まずまずであったと思います。結果の資料として、一つ目は、回答状況を人数とパーセントで表示したものと、回答状況を点数化してABCDの評価で表示したものの両方の資料をご覧頂きながら説明いたします。

◇「心豊かな子」の育成について

・今年度から、評価項目が8つになりました。「学校生活を楽しいと感じているか。」の項目では、保護者も児童も概ね楽しいと感じており、学校行事等にも積極的に参加してくださっている様子が伺えます。

・「思いやり」や「責任感」については、大切にしているという結果が出ています。今後も楽しい、そして、思いやりを大切にした行動が取れるよう、児童の環境の維持に取り組んでいきたいです。

・「決まりの遵守」や「いじめについて」の項目では、保護者の評価はC評価となりました。子どもたちが安心して学校生活を送り、保護者の方にも感じていただけるよう生活ルールの周知や子どもたちのトラブルの早期発見・対応・解決の強化を図っていききたいと思います。

・課題としては、「挨拶」に関することや「読書」に関する事です。本校では、3A委員会が中心となり、毎朝、児童に呼びかけていますが、さらに実践に結びつく手立てを工夫していききたいです。読書についても、図書委員会で読書月間などを実施しています。また、朝の読書活動や夏休み親子読書なども実施しています。学校でも取組を保護者にも伝え、読書習慣の醸成に努めていききたいです。

◇「進んで学ぶ子」の育成について

・今年度の評価項目は、4つです。

・どの項目も概ね肯定的な結果でした。特に、「友だちと協力したり、話し合い活動したりする学習」については、総合評価がBで、肯定的に捉えてくださっており、引き続き協力的な学習集団づくり、協働的な学習を提供できるよう工夫していききたいです。

・課題としては、「家庭学習」です。家庭での学習の質を向上させるために、具体的なサポート方法を検討し、提供できるよう工夫していききたいです。また、児童の中には、どの質問項目にもやや不十分と回答している児童もおり、個別のサポートや興味を引く要素を組み込むなど、指導方法や教材の工夫に努めていききたいです。

◇「健康でたくましい子」の育成です。

・今年度の評価項目は、4つです。

・「安全意識」や「清潔意識」については、児童も保護者も共に肯定的な結果でした。安全に対しては、登下校の保護者の見守りやスクールガードボランティアの方の付き添いなどで、児童は安心して登下校ができています。一方で、安心しきってしまい、「自分で」という意識が薄い児童もいます。「自分で考え判断し、責任をもって行動できる力」を育む指導を継続的に児童、保護者、教職員、地域と協力して取り組んでいけるよう情報の共有を図っていききたいです。

◇「信頼される学校」について

・評価項目は、9つです。

・「外部講師による授業等」については、肯定的な結果がでており、今後も児童の新

しい学びの機会となるよう連携を充実していきたいです。「学校の教育方針」や「教科担任制」については、今後も保護者の理解を深められるよう、情報の発信を工夫していきたいです。

・課題としては、「小中一貫教育の推進」の評価が低めでした。総合評価もBでした。学校だより等で、小中合同クリーン活動などの情報を発信していますが、さらに広く周知できるようにしていきたいです。また、「先生への悩み相談」や「自己肯定感」については、概ね達成の評価が出ていますが、やや不十分と感じている児童も存在していることを忘れず、児童一人一人を大切に、相談しやすい環境を整えていきたいです。

会長
・学校評価の結果を見ると、「先生への悩み相談」や「自己肯定感」の項目について、C評価をしている児童がいることが分かりますね。
・保護者や児童への質問項目で、それぞれ結果が無いところがあるのは、何か理由がありますか。

教頭
・質問によっては、児童と教職員に対する質問であったり、保護者と教職員に対する質問であったりするので、結果が無い項目も出てきます。

会長
・保護者の感想もまとめてあるので、確認します。○△・の表記について説明をお願いします。

教頭
・「△」については、学校への要望や工夫してほしいことなどです。「○」は、良かった点になります。「・」は、感想です。
・今回、保護者には、初めてタブレットを活用していただきましたので、昨年より、意見や感想の記入が少ないと感じました。紙による学校評価の方が、保護者も率直な意見を記入できたのかもしれませんが。

会長
・グラフや感想をご覧になって、併せてご意見いただきたいと思います。

委員
・タブレットを活用して、集計やグラフ化等随分便利になりましたね。紙を集めて一枚ずつ集計するのは大変ですよ。

委員
・評価の基準は、どうなっているんですか。例えば、「マナーを守って食べている」の項目の児童と保護者の評価の基準について、保護者は、現場を見ていない。その場合、大人が回答するに当たって、どういう基準で回答するのでしょうか。
・また、「マナーを守って」とありますが、その場合、どういうふうになれば学校としてはいいのか。例えば、自分は、食事は楽しくするものなので、友だちと話をしながら食べればいいと思います。また、最低限、出された物は、残さず食べるようにしましょうくらいの判断基準しか無いです。また、学校ですので、配膳が済むまできちんと待っていきましょうとかですかね。自分がこれを回答するにしても、何ををもってどういうふうにABCを付けたらいいのか分かりづらいと感じました。

委員
・保護者の立場で回答したのですが、保護者の立場としては、現場を見られない。見えないことは、分からないので、大抵の保護者は、Bを選択することが多いと思います。他にも、曖昧だなと思う回答は、直接見られないため、BかCにしておこうかなという判断で回答している方が多いと思います。

- 委員 ・家での食事中、子どもたちはどんな食べ方をしているかという基準で、判断する方もいると思いますね。孫たちの食べる様子を見て、「学校や幼稚園でもそういう食べ方しているの?」という会話の中から判断されているのかなと思います。
- 委員 ・コロナ渦では、黙食でしたが、今も、続いていますか。
- 教頭 ・そろそろどうしようかという話は出ています。隣りの子と絶対話をしてはいけない。という指導は、もう終わりました。小さい声で話をするくらいはあります。今の時期ですと、インフルエンザも流行っていたり、まだまだコロナも安心はできない状況ですので、気を付けて食べています。コロナ渦を経験している子どもたちですので、教師が言わなくても、マスクを外さないでいようか。静かに待っていようか。というのは、自分で判断しています。
・コロナ前のグループで食べていたというところまでは、まだまだ難しいのかなと思います。
- 校長 ・石橋中学校区の校長会では、来年度も、黙食とは言いませんが、前向き給食は継続していくことで共通理解を図りました。現在、給食当番以外の児童も、給食の時に、エプロンを着用しています。来年度は、給食当番はエプロン、三角巾、マスクを着用していくよう進めていきたいと考えています。。
- 委員 ・下校の帰り道、子どもたちから、「給食でこんなデザートが出たよ。」「おいしかったよ。」など、楽しい話が出ます。給食は、楽しく食べているのかなと想像できます。
- 教頭 ・食事の量やマナーについては、学校の決まりの中に、大まかな約束があります。それに則って、配膳が終わるまで静かに待つ等、子どもたちは、その決まりに従って給食の時間を過ごしています。また、食事の量も、食べられる分を食べられる量で、嫌いな物も一口はいただくように促しています。
- 委員 ・読書についてですが、子どもたちは、本はたくさんあるけど、どの本を選んでいいのか。また、本の情報が分からないのではなんでしょうか。自分が本を借りるときには、何が書いてあるのかをネットで調べて簡単なあらすじみたいなのを読んで、おもしろそうだなという興味をもって読み始めるので、そんな状況があるといいのではないかと思います。
・最近では、本屋さんに行くと、目録や走り書きもあり、本に興味を沸かす工夫されています。子どもたちにも、本を選ぶ際、本の情報が分かると選びやすいのではないのでしょうか。子どもたちに、情報提供できると良いと思います。つまらない本は、少し読んで、もう読まなくてもいいと思います。
- 委員 ・以前、図書館で保護者が、「子どもたちの本を選ぶ際、何を選んでいいのか分からない。負担だ。」という声を聞きました。例えば、宇都宮では、図書館の方が選んだ本が学校に届けられるという形をとっている所もあります。それが無理でしたら、是非、図書館の方にその学年に合った本を選んでいただく協力をしてもらおうと良いと思います。図書館の方に選んでいただいた本を保護者が運んで来るという形にすれば負担は少なくなると思います。図書館の方をもっと活用していいのではないかと思います。

それができないのであれば、図書担当になった保護者の方に、年に1回でもこんな本という紹介ができますので、話させていただければと思います。

・図書部会の保護者の多くが、自分の子どもが読んでいる本を基本にして選ばれると思いますが、本を読まないお子さんの保護者の方もおります。選ぶ際、名作を入れればいいのかというとそれは違って、読める子と読めない子がいますので、いろいろなジャンルの本を入れてほしいです。保護者の方は、そういう所で困っているようです。

委員
会長

・見た感じでも、本が古いと感じます。大人でもそうですが、手に取る本がおもしろいと思えなかったら読めないと思います。

・保護者の感想を読ませいただきました。図書部会（PTA）は不要かと思います。という記述を読んで、保護者の方の負担感があるんですね。

委員

・子どもたちの本を選定するのに困っていらして、選ぶのを図書館の方の協力があれば、また、学校に運ぶだけになればその負担はずいぶん減ると思います。中には、それを手間と思わずに、楽しまれている方もいると思いますが。

委員

・図書の選定は、自分の担当する学年を行っています。中には、楽しみにしている方もいます。

委員

・お子さんの読書傾向に関心がある方ばかりではないので、選んで来いと言われるのは、負担だという意見について、これは正直な意見だと思います。もっと、プロの手を借りて良いのではないかと思います。

委員

・保護者の、図書部会は、比較的新しい部会で、確か10年位前にできたものだと思います。北小の本の貸出率や読書量が低く、市の図書館も遠いため、子どもたちだけでは行けない距離ということで、PTAの方で、保護者が借りて来てあげようということになったと思います。当時、北小の図書館の蔵書が少なく、古い本も多いこともあり、子どもが本を借りないのではないかといいことから始まったようです。

委員

・とても良い取組だと思います。新しい本がたくさん入るといいのですが、図書の予算にも限りがありますので。保護者の取組はとても良いので、保護者の負担を減らすようになると、さらに良いと思います。

委員

・やりたい人はいますが、毎年、各学年1名を選出しなければいけないので、やりたくない人も中には、選ばれてしまいます。

委員

・やりたいなと思う人はいると思います、それほど大勢ではなくても、役員ではなくても、やりたい何人かでボランティアのような形で動くといいのではないのでしょうか。

委員

・年間4回、役員になった方が市の図書館に行って、学年の人数に合った冊数を借りて来ます。

- 地域学校
協働推進
員
教頭
- ・選ぶ際、担任の希望は入ってはいないのですか。
 - ・入っていないようです。
- 委員
- ・購入するのは難しいですが、家庭から寄附してもらうのもいいのではないのでしょうか。子どもたちが家庭で読んでいておもしろいと思う本を寄附してもらえたら読むのではないのでしょうか。
- 委員
- ・図書の予算の問題もありますね。
- 委員
- ・学校の必読図書が、古いですよ。
- 委員
- ・質問ですが、本を読んだら感想文を書くことになっていますか。それは、負担ですよ。
- 教頭
- ・それはいいです。夏休みの課題の一つに入っています。
- 委員
- ・先生方が工夫されていて、読書週間などでは、ガチャガチャを回して子どもが楽しめるくじが用意されていたり、必読図書を読み終えるとシールを貼ったり、多読賞のしおりなどが賞品として用意されたりしています。図書室に来てもらう工夫が見られます。
- 委員
- ・漫画なども良いと思います。漫画を読むことで、言葉も知識も増えます。漫画なども是非寄附してもらおうと良いと思います。おもしろかったという話題から、友だちが読んでいたから自分も読んでみようかという気持ちになると思います。お金をかけないで、読書を勧める方法も図書委員会で考えてはいかがですか。
- 委員
- ・最近の子どもたちは、本より動画を見てしまいます。体験ではなく、目で観て情報をすぐに得てしまいます。
- 委員
- ・小説が大好きで、本をたくさん借りる子もいます。今の子は、調べ物をする時でも、すぐにタブレットで調べてしまいます。とても簡単に済ませてしまいます。
- 校長
- ・低学年の児童に、家に帰って何をするのか尋ねると、YouTubuを観ていると答える児童がいます。家での時間の使い方も依然と違ってきているのだと感じるところです。YouTubuを観て、ゲームをしようと言うことで、目から読むのではなくなっている時代がきているのをとても感じます。だから、古い本を手にとらなくなるわけです。
- 委員
- ・図書館に行かなくてもネットで調べられてしまう。子どもたちは、親以上に情報が豊富です。手元で間に合っています。
- 委員
- ・北小では、子どもが読み聞かせをしたり、おすすめの本の紹介をしています。図書委員の子どもたちは、本が好きな子が多く、広めたいという気持ちでやっているようです。

- 校長 ・今年、図書委員の2名の児童が、昼休みに自主的に読み聞かせ活動を行っています。朝の読み聞かせボランティアさんの影響もあるのか、自分たちで読み聞かせを行うという取組をしています。きっかけや繋がりがある子はどんどん読書に結びついているようです。今後、読書に関するアンケートの数字が全体的に低いので、改善策を考えていく必要があると思います。
- 委員 ・以前出版会社に勤めていたこともあります。実際、子どもたちに読書の良さを伝えられていません。読書をすることによって、大人になっていいことがあると伝えても、まだ、ピンと来ていないようです。下の子が、最近「ハリーポッター」に興味をもち始めたところで、それをきっかけに全巻読ませたいと思っています。子どもに読書のきっかけを作るのはどの家庭でも難しいと思います。先ほど出ましたが、おもしろい本、読むという行為が楽しいと思えば、YouTubuを超えてくるのではないかと思います。
- 委員 ・家にもたくさん眠っている本があります。学校でも引き取ってくださると有り難いです。
- 委員 ・以前、家にある古本を持ってきて、学校でバザーのように売って、その収益金で、新しい本を購入するのはどうかという話も出たことがありました。
- 委員 ・尼寺で、年に1回ですか、「絵本まつり」が開かれます。絵本を読んでもくださる方のところに子どもたちが集まって、お話を読んでもらったり、自由に好きな絵本を読んだりする活動です。家では味わえない絵本の世界があり、楽しい取組です。子どもたちにとっては、何がきっかけになるか分からないですからね。
- 委員 ・長年、子どもたちと一緒に歩いていると、ランドセルが重いのを常を感じています。読書の話に反することになりますが、教科書も重い、増して、図書を借りてくると、長い休み前などは3冊もランドセルに入っていることがあります。特に低学年などは、バランスを崩しやすいですから、ランドセルの重みは、怪我に繋がる心配があります。大きい学年の児童も、タブレットは入っている、教科書は重い。ランドセルの中身を軽くすることはできないでしょうか。
- 教頭 ・理科、社会、家庭科、音楽等は大体学校に置いてありますが、以前と比べて、教科書が大きくなり、その分重くなったと感じます。
- 委員 ・国語だけでも、教科書、ノート、漢字ドリル、漢字ノートの4冊になります。同様に、算数も4冊持ち運びしています。
- 会長 ・読書をさせたいという思いは、保護者も教職員も一緒ですね。「読書をしていますか」のグラフを見ると、やはり子どもたちの方に問題がありますよね。子どもたちに読書をさせてあげようという思いは当然出てくると思います。図書部会（PTA）の取組の改善・検討を図っていけば、解消するきっかけになりますね。
・今、持ち物についての話題も出ましたが、いかがでしょうか。
- 校長 ・ゆくゆくは、デジタル教科書の時代が来るのではと思いますが、この他にも家庭学習について気になることがあります。家庭学習の定着と充実という点から考えると、毎日持ち帰らなければならないことになります。今後、学校に置いていく物と、持ち帰

る物を見直していかなければならないと思います。

・教室には、教科書を置く場所なども確保していくよう検討していきたいと思います。

会長

・「心豊かな子の育成」のところで、「思いやりをもって生活している」と「進んであいさつをする」について説明がありましたが、教職員の考え方と、子どもたちの考え方が少し違っているようです。当然、教職員は、子どもたちに指導し、良い方向になるよう手立てを打っていることと思います。保護者の感想の記述を読むと、学校に対して、もっとしっかり見てほしいという内容もあるようです。

・「優しい心の大切さを学校生活の中で学んでいってほしい」。また、「先生や友達、上級生、下級生との学校生活の中で、優しい思いやりの心を育てていってほしい」等の意見が書かれています。学校生活の中で優しい思いやりをやってくださいということですが、それでいいのですかね。皆さんは、いかがですか。

委員

・学校でも大切にすることですが、これは、家庭の問題ではないかと思います。家庭で、思いやり、親子関係、上下関係について教育することではないですかね。

委員

・親がパソコン、携帯に夢中になっていけば、子どもも当然別のことをやろうと思います。話しかけると怒られるのではないかという思いをもつのではないのでしょうか。親子の会話等にも影響があるのではないのでしょうか。

委員

・子どもたちは、家庭で育っています。成長して、幼稚園や小学校に入学してくるわけです。基本は、やはり家庭です。

委員

・子どもは、本質を見抜いています。大人の見方とは違う評価をしています。家庭で、大人が悪口を言っているのを、その様子を子どもは親を見えています。

委員

・学校に何でも預けてはいけないと思います。ただし、保護者も学校を頼りにしているということですね。

会長

・「健康でたくましい子」のところで、「児童は、衛生面・健康面に気を付けて生活している」について、児童と保護者では随分意見が違っているようですがいかがですか。

教頭

・休み時間はできるだけ確保するようにしています。外で遊んでいる子はたくさんいますが。体育の授業では、体調が良くないと、見学する子もいます。

委員

・今の子は、下校してから外で遊ぶことがとても少ないです。また、保護者は、思った以上に体力テストの結果が上がっていないので、そう感じるのではないのでしょうか。

校長

・体力テストの結果を見ると、小学生は、毎年ボール投げ・握力の結果が低いです。小中一貫の取組として、中学校では、教室に握力計を置いて計測できるようにしています。

・中学生と比較すると、休み時間の過ごし方としては、小学生はよく外遊びをしています。体育の授業は、運動量の確保を工夫して取り組んでいますが、体力を上げる事は難しいです。

会長	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との意見のずれはありますが、あまり数字を気にせずに取り組んでほしいと思います。
教頭	<ul style="list-style-type: none"> (3) 令和6年度の学校行事について ・現段階で決定している行事についての報告
校長	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、文科省からの教育課程編成の見直しを受けて、授業時数の予備時数を減らすよう検討しています。また、日課の見直しも検討中です。
地域学校 協働推進 員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価については、どの学校も似た傾向が見られます。読書について、話題に出ましたが、地域に呼びかけてみるのも良いと思います。また、学校からも情報発信すると良いと思います。 ◇令和5年度 小中合同学校運営協議会の取組について資料を基に説明 ・「石橋地区小・中学校だより」のコーナーに、各学校運営協議会の取組の様子 ・小中合同クリーン活動の様子 ・石橋公民館の地域学校協働活動の取組について <ul style="list-style-type: none"> ① ママナビ(就学前児のいる保護者対象の学習会) ② 庭園管理実践講座 ③ 公民館での児童作品展示(ふくべ細工) ・学校運営協議会の皆さんには、今後も地域連携教員と共に、学校と地域の連携として地域学校協働活動を推進していただきたいと思います。
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の学校運営協議会の委員として、是非お願いしたいと思います。ご都合が悪い場合はご連絡ください。 ・本校の校歌の作曲をしてくださいました大出 孝祐さんが、叙勲を受けられましたこと、ご報告いたします。